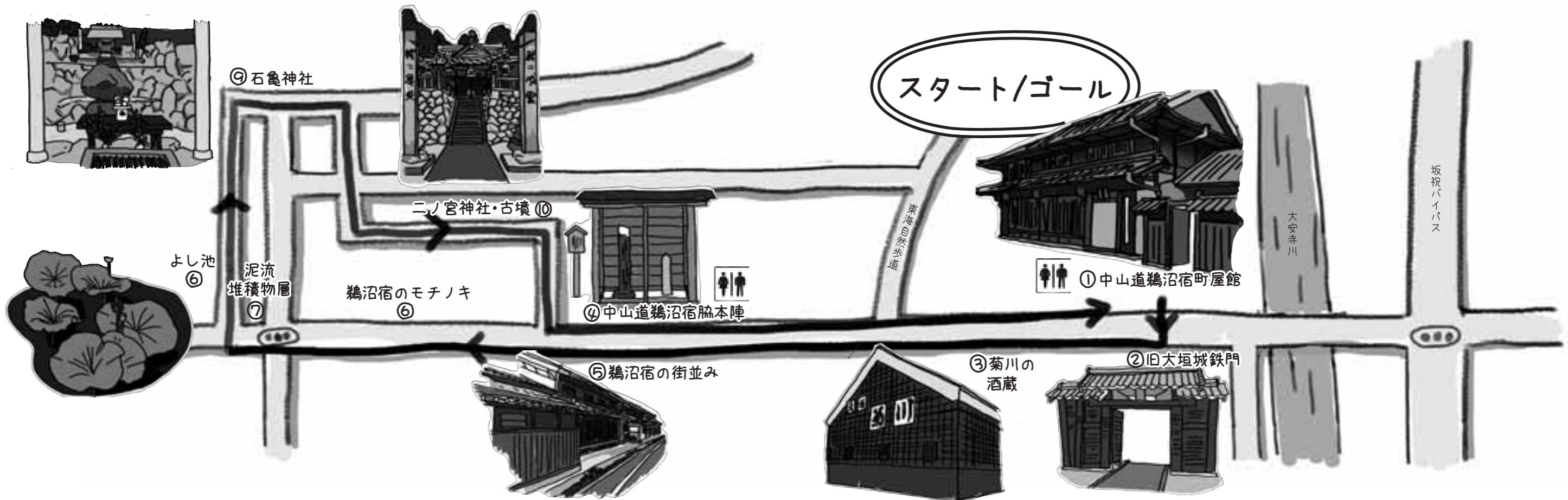




中山道鵜沼宿めぐり

楽しみは宿場の町並みだけではありません！
5万年前の地層、巨大亀の石にびっくり仰天！

中山道69次の52番目の宿場となる鵜沼宿には、江戸時代の往時をしのばせる町並みが再現されており、かつての旅籠を活用した交流施設や、旧大垣城の鉄門、古地図を基に復元された脇本陣など見どころが沢山あります。さらに、ほんの少し足を伸ばすと、5万年前の地層や、巨大な亀がそのまま化石になったような巨石、古墳の上に立てられた神社など、びっくりするような発見が待っていますよ。(距離約1.4km)



中山道鵜沼宿めぐり
ここを見よう

① 中山道鵜沼宿町屋館

かつての旅籠「絹屋」を中心に歴史民俗資料館、離れからなる鵜沼宿の交流施設で企画展などが行われます。明治時代の濃尾大震災後に立て替えられたものですが、江戸時代の面影をよく残す町家建築です。

② 旧大垣城鉄門

大垣城本丸の表口に立てられていた高麗門形式の鉄門です。市内の旧家に払い下げられた後に各務原市に寄付され、この場所に移築されました。

③ 菊川の酒蔵

明治4年に鵜沼宿で創業以来、百年以上の歴史を持つ造り酒屋です。黒い壁の木造の蔵は、昭和初期の建築物として登録有形文化財となっています。お酒を購入することもできます。(内部は非公開)

④ 中山道鵜沼宿脇本陣

江戸時代の鵜沼宿の脇本陣を務めた坂井家を、古絵図を基に現代に復元しています。かつて本陣や脇本陣だけに許された門や玄関、上段の間からは、大名や公家が泊まった格式高い伝統的な和建築の粋が感じられます。

⑤ 鵜沼宿の町並み

かつての鵜沼宿の面影を残す町並みが残っています。坂井家、梅田家、安田家、少し離れて丹羽家はいずれも登録有形文化財となっています。中でも梅田家は、江戸時代後期の建築物が残る鵜沼宿で最も古い家屋です。

⑥ 鵜沼宿のモチノキ

天保年間に鵜沼宿で起きた火災では、この木が延焼を食い止めたと言われ、火災の起きた28日には、このあたりでは餅をつかないという風習があるそうです。

⑦ 泥流堆積物層

このあたりは、各務原台地と呼ばれる台地で、地層は各務原層と呼ばれています。これは、今から6万～10万年前に御嶽火山の活発な火山活動により堆積した大量の軽石が当時の木曾川によって運ばれてきたものです。ここでは、各務原層の段丘面を上流から流れてきた木曾川泥流が覆った約5万年前の堆積物の層を見ることができます。

⑧ よし池

もとは農業用に造られた小さな池ですが、池いっぱいにはハスが広がり、ハスの花の名所として知られています。夏には濃いピンクから薄いピンク、珍しい白いハスの花も咲きます。

⑨ 石亀神社

境内の中心には、今も生きて動き出しそうな大きな大きな石の亀が祀られています。このあたりは、鵜沼石の採石場でした。尾張藩の歴代藩主の墓石に使用されており、二ノ宮神社の石垣や古墳の石室などにも使われています。

⑩ 二ノ宮神社・古墳

本殿は古墳の上にあり、鵜沼宿ができる以前から地域の信仰を集めて来た社です。拝殿は明治時代後期の建築とされ、当時盛んに行われていた地芝居や歌舞伎の舞台としても利用されてきました。

企画：中山道鵜沼宿
ボランティアガイドの会
編集：中山道ぎふ17宿歩き旅事務局
(日本イベント企画株式会社内)

